

降矢さんに聴く（第三巻 A面）

（収録 1979/07/26）

（テープ起し 2009/4/27）

修正 2014-9-12

（前半は音声が悪く聴きとれず、途中から・・・）

降矢：三〇〇というのかね、そのねえ、徳川時代だけは流石に平和になってね、でも或いは、いまの制度よりももっと公平な制度であったかも分からなかったですね。何故っていうと、いま戦後の社会福祉制度ちうものがあって、金を政府がどんどんだしますがね、この時分はそういう制度はありませんでしたから、だから、家の格式によって、宅の建て方とか生活とか、・・・結とかまで細かな点まで、もう決められていて無駄使いしないように工夫されただ、と思うんです。

そうかと思うとね、病人がでても火災に遭っても、自分自身でまた自力でその人なりに更生する力がどっかに蓄えられたと思うんですがね、・・・。現在の制度だとね、よほど心がけの良い人ならともかく、普通の人ね、もう、すぐてえ？しゃうですよ。何故ちゅうにね、誰もね、難しいものは言うもんじゃなし、**キゼッパイ？**の暮らしの最高の時期にやっても何でもないんですからね。そうかと思うと、こんな援護を受けないと立ち上がれない人たちは、ザラですよ。だから、ワジャ、徳川時代は人権を無視するという非難もあるだべさ。やっぱり、そういうふうを考えるべきではないかと思うのです。今はあんまり他力本願でね、・・・。

木俣：結局ですね、さっき教育に欠けているとおっしゃったのは、それだと思うんですよ。

降矢：困ったら、何とかして救ってもらおう、それが事実困ったというより、輪をかけて取ってやろうと言ったような、・・・。

木俣：助け合うということは良いことですけど、だけど、自分で最低限のことはやって、その上で、やっている人間同士が助け合うことで、・・・。最初から助けてもらおうというんじゃないですかね。

降矢：いやあ、最近は最初から助けてもらおう、もらいたいようなところまで行っているんじゃないですか。

木俣：ですから、それは最初に言った教育に欠けていることだと、・・・。結局、それがいちばん欠けている。先生になる人でもそうだし、そうなれば生徒もなおさらそうなるし、・・・。

降矢：もっともね、学校の先生が、給料が低けりゃスト起こす時代だから、そこのところが割り切れないな。

木俣：いや学校の先生の給料は低いわけではないですよ、普通の会社員に比べて、・・・。

降矢：いや、そこまでしなくもね、やっぱり教育者はね、**ゲンブン厳然？**としていなくち

ゃ片手落ちに教育者だけ、〇〇まるということはないんですから、・・・。

木俣：いや、そんなに低くはないですよ、・・・。

降矢：ああいう面がね、気に食わないんですよ。

木俣：最初はストやるのも、何やるのも良いと思っていたんですけども、いろいろ話を聞いてみると、教育でないところで忙しいらしくて、教育で忙しいわけではないのです。

降矢：もう独りや二人は、それにつきっきりの人がある。

木俣：どうも、受験の参考書を作るとか、また塾に教えに行くとか、アルバイトばかりで、・・・給料かなり貰っていると思うんですけども、それでもそういうことばかりやっていて、・・・。

降矢：だけどね、人間の欲望って限界がないからね、お金とっても、〇〇これやね、いくら取っても使い用があるんでしょうか、・・・。

木俣：でも、楽しみは、金が無くなったって楽しみはあるわけで、お金とるといってそれだけで自分の時間なくなるわけでしょう。

降矢：ワシなんかね、徹底して悟ってしまえば、それはそれで、・・・ハッハッハッ。

きまた：いや、悟りたいですね、・・・。どうせ生きる時間なんか限られているから、好きなことをやった方がいいですからね。お金よりも好きなことをやった方がいいですからね。そんなことばかりやっていると、死ぬときになって、何やってきたのかね、なんて思うんじゃないですか、やっぱり。

降矢：けれど、どういうものでしょう。ワシよく話すのは、・・・金になることをやって楽しいと思ってやっていたらだね、楽しいはずなんだけど、金になることをやれば、・・・本当ですよ。実際はね、金をとらないから、やっていけない？のですよ。

木俣：やっていけないから、しょうがないからやっている。

降矢：金をとる仕事を楽しくやっている人は滅多にいない。金にならない事を行っているのはオカシイだ、・・・ハッハッハッ。実際は金にならない事を行っているのが楽しいはずだが、・・・。

木俣：楽しいという人だっているようですけれども。

降矢：それはわずかでしょうね、・・・。

木俣：まあ、少なくとも、楽しいとは思っているでしょうよね、・・・で、そんなことで、五章にして、六章でまとめにして、・・・で、先ほど言いましたように、山での生活がこう、日本人の生活の基本というようなことを結論としてまとめて行こうというような、・・・。

降矢：まったく、前の先祖がどこから来て、どうなったかは知らないけれど、まあ、こちら一帯確かにどっか、山の生活からだんだん慣れたってですね。はじめは〇〇〇いでも、肥料？を加えて焼畑かなんかやっていたんでしょうね。

木俣：でも二千年も三千年も前という、すぐ近くまで海が来ていたんですね。だいぶ海

が高く上がってきますから、縄文時代は、だいぶ暖かかったらしい、……。南極の氷が溶けて海がだいぶ高かった。相模湖の辺りは海で、この辺、縄文時代の遺跡がありますから、西原では……。

降矢：相模湖の辺りから貝の化石がでたことがある。

木俣：ですから、ずうっと海だったんですね、……。そういうようなことでやるとして、お暇なときにときどき伺って、順番にお話伺っていかうと思うんですが、いかがでしょうか、……。

降矢：ああ、いいでしょう、わかりました。

木俣：じゃあ、今日はアレですから、……。

降矢：ワシの見る見解は西原に偏っているから、……。

木俣：それでいいんじゃないですか、いや偏っているというのはおかしいですけども。真実はなかなか分かり切りませんからね、……。

降矢：自分の目で見、聞いた範囲のことだけはですが、いずれ想像とか判断とかしなければ、……ならない部分がでてきますしね。

木俣：結局、そういうこと、……。

降矢：まあ、ワシらの上、歳では上的人也いますけれども、ワシ以上、古いことを知っているような人、歳の人たちが、ことの分かっているような人が亡くなっているんから、……。

奥様：降矢〇〇さん（参議院？）は、……、あの人たちは政治とか、一部分のことははるかに古いことを分かっているんだけど、……いわゆる庶民の真実の生活というのは、案外、ああいう人は疎いから、……。

木俣：おいくつですか、……。

奥様：八五、六になるでしょう。

降矢：西原の生活とか歴史とかは分かっても、百姓の生活というのはあれだから、やっぱり、ワシと大差ないだろうが、……（聴きとれない）

奥様：……のお百姓のことは紙に書いておいてね、毎年毎年それを見てはな、こういうときはこう、いつごろ作れば良いということは書いておくし、本をみては、……人を使っていますからね、……だからそういうことを聴いた方が良いかも知れない。

木俣：でも、そういう話では本当のことは分からないじゃないですか、そういう方たちの本はたくさん出ています。それでは自分には本当のことが書いてあるとは思えない。面白くない。何も知らない人が読めばそれで満足するかも知れないが、もうちょっと知ってる人が読むと、本当じゃないと分かるから、……という物足りないですね。それ自分が直接、畑を耕している人が話をして、ご本人が、直接、話を書かければいちばん良いのですが、ご本人にその気がないようですから、お手伝いして、……。

降矢：それでモノを書くということは、かきだせば書けるかも知れないが、やっぱり普通

の人が、モノをまとめるということは、これはエライことのようにですね、・・・。

木俣：書くことは難しいですね、・・・。

降矢：一つまとめれば、あとは楽になるでしょう。ワシはね、前に随筆いくつか書かせてくれて書いたことがあるのです。随筆、なかなか要領よく書けねえんでさあ・・・。

木俣：いま論文書きかけのが、いつから始めるか、・・・なかなか書けない。最後のところで、・・・まだ放ってあるのです。

降矢：それでも書いたわけだんだが、発表する雑誌が廃刊になってしまった。県で、(郡?) **単位**で、いわゆる文化人たちが、・・・金を使わなきゃいけないというので、部数は多くないですからね、読む人も少ないしね、・・・。それから・・・(掲載された雑誌を探し出して・・・) 書いた随筆が、・・・ウからはじまってウド、ウシ、キツネ、ナス、ここから関連している、・・・そういうものと、・・・。

木俣：キツネなど、いまでも居るんですか。

降矢：ええ、居ますけどな、・・・。

木俣：タヌキなども居るんですか、・・・。

降矢：ええ、居ます。ウンとはいませんけれども、あれあタヌキというのはね、案外キツネなんかよりどうですかねえ、鈍いというか敏捷でないせいでしょうね、あれ、キツネは敏捷のようですかね、・・・。

木俣：最近、キツネやタヌキが増えて、街中에서도出るようです。

降矢：あのキツネは結構、居ますね。タヌキは、・・・ここら辺りではムジナといますが、ムジナとタヌキは同じものですかね、・・・。

木俣：キツネなんか、食べに降りて来るんですか、鳥でも獲っているんですか、ネズミでも、・・・。

降矢：キツネは一、ええちょっと鳴かないないかねえ、五月・・・いや六月頃によく鳴いたね、・・・。ギャー、ギャーと野ギツネがね。

奥様：コン、コンとは鳴かないわねー。

降矢：ギャッ、ギャッ、ちょっとカラスの辺なような鳴き声だね。

木俣：子供が生まれる時季なんですか。

降矢：子供はもう出来たですかねー、五月にはもう生まれますから、交尾季が十一月頃のように。寒い頃のようなので、・・・。あれねえ、まあ、トウモロコシを良く食べるんでさあ、・・・。

木俣：食べるんですか、・・・。

奥様：あのハニー(バンタム)というのをどんどん食べるの、・・・。取るのは見えんけれどもね、引き込んでね。イヌは食べません、家で飼っているのは餌をウンとやるから、・・・。本当にキツネらしいですよ。

木俣：夜になってから、・・・。

降矢：夕方か明方・・・ま、田舎じゃないな。・・・ニワトリでもウサギでも飼えばな、ウ

サギを捕って食べるし、……。小さいネコも食われるらしい。

木俣：普通のトウモロコシは食べないですか、ハニーだけですか、……。

降矢：普通、トウモロコシは高いところに在るから、……。ハニーなんか取れない場合はね、押しつぶして取る。噛んで根のところを押しつぶしてもう、カラスが食う方と残骸がぜんぜん違う。もう、歯を嘴で突ついたのでね、食べ残りが、……。ほいでね、掻きとって取ってね、どこか桑だの繁ったところに引いて行って、そこで食べてる。あれはいちばん食べるね。サツマイモは、この頃、作らなくなったな、……。

木俣：アワとか、そういうものは食べないですね。

降矢：そう、トウモロコシだな。

木俣：粒が大きくて、やわらかい。

降矢：それから、落花生は好きでさ、あれはたいがい、どこに作っても食べられる。

木俣：掘ってたべるのですか、皮を剥いて、皮ごと食べるのですか、……。

降矢：あれは、やわらかいうちに……。だいたいキツネなんかに掘じくられたのでは枯らしてしまうからね、多少、油臭いのかなあ。ワシヤね、キツネなんかねえ、……。今日、行った畑ね、あそこはね、割合作れば落花生なんか穫れる土地ですよ。土がね、浅いし、小石が多い土地で、地熱が高いから、あんまり、……。

来客：すみません、水使わせてください。

奥様：どうぞ、使ってください。

降矢：ホース突っ込んで、向こうでですすよ。

木俣：あと二十分くらいで、……(カイコが届いた様子……)

奥様：オカイコ来るとね、もう何処にも行けません。

木俣：もうちょっとしたら、お邪魔します。

降矢：いや、ゆっくりしてください。

木俣：もう、これだけ伺えれば、……。

奥様：ゆっくりして行けばいいですよ。

木俣：いや。雨が降りそうですし、……。

降矢：雨が降ればいいでさあ。ここで昨日もゆっくりしてね、飽きたから盆栽作りしてね、やっぱり昼寝もね、たまに時間があっても身体がね、……。

奥様：夜、眠れなくなったりね、……。

降矢：雨降れば、昼寝して、起きて、手紙を書いて、……(聴きとれない……)

さもなきや、どっかにお茶飲みに行ったり、……ハッハッハッ。

木俣：そりゃいいですね、いちばんですよ、……。

降矢：もう、皆さんがね、羨ましがっていますよ、私を、……。ワシには、他に幸福とも思っていないんでさあ。

木俣：○○○もそうすればいいんでしょうが、……。

降矢：やっぱり気持ちの持ちようでしょうね、そいでね、本を読むとか書くとかしないと

ね、……。また脳軟化になっちゃうから、頭の方も少しね、……。どうしても頭脳を使う方が齢をとらない。これも程度もあるでしょうが……。無理に使うと、……。また……。大事にしすぎるとね、……。

木俣：自分の先生のまた先生という人が、……

(テープ切れ、A面終了)

(B面 開始)

降矢：……。若いうちは徹夜でというまでは駄目でしょうかね。ワシら軀を使っているせいだろうかね、本を読むとね、長つづきしないでさあ、眠くなってね、眠っちゃうでさあ。

木俣：自分だってそうですよ。

降矢：それがね、若い頃はね、若い頃じゃない、一時くらいは好きな本読んでいて眠くなることもなかったが、この頃は三〇分も読めばどうも頭がこう重苦しくなって、そのうちどうも眼を開けていられなくなる。眼がトロトロまどろむという、……。まあねえ、読めば良いという本があるんですが、なかなかそれが読みきれないんでさあ、……。ハッハッハッ。

木俣：自分も積ん読くというか、……。専門の本が日本人の本はあんまり面白いものがないから、アメリカとかイギリスの本を、こんなに厚い本ばかり買ってもなかなか読めるもんじゃなくて、積んだら終わりだから、……。

降矢：ウチは子供が、オヤジさん、何時でも出して見たいものがあれば、出してみろと言うんだが、……。(聴きとれない……)

木俣：そうですね、本でしたら、また誰か使えますしね、……。本は大事だから、……。

降矢：(……。よく聴きとれない……) 子供たちと話をしていると、この頃の東京の人は本をさかんにあさっている、と言ってね。ラジオもあり、テレビもあり、まだその上に本をさかんにあさってる日本人は、いい傾向じゃないかと言ってね。何の本がいちばん買う人が多いかと訊いたら、住宅に関連した本のようにしたね。

木俣：あんまり本のムシというのもよくないですから、どっか、それとも釣りでもした方がよいのでは、……。

降矢：もちろん、よいですがね、環境によってね。ワシヤ、釣りとか**めじじ?**とかならね、簡単でやりたきゃ何時でもやれるでしょうが、……。やっぱりそのね、遊びだけではもの淋しいでは、……。縁遠い土地に生活している人が、日本にはウンと居るではないですか、……。

木俣：今度、逆の話ですけどね、自分の住んで居る官舎に七軒、隣同士で住んでいるんですけど、結構、若いのに熱心に盆栽やっている人が居るんですね。あんまり若いう

ちから盆栽やるのもどうかなの思ったりして、……。熱心なものですね……。早く役所から帰ってきて、いろいろひっくり返してやっていたりして、……。

降矢：そうでもないね、盆栽なんかやる人は、○○○なもの、短気な者が○○○るもので、気が変わってきますよ……。盆栽やるとね、気が長くなります。範囲が広くなりすぎてね、山からコイで来たりすると、多くなり過ぎて、仕舞いには弱りはてちまって、……。ええ。鉢に容れても置くところがないしね。

……。はあて、いろいろ作っても、食べてくれる人がいれば励みにもなるんだが、ろくすぼ食べてくれないし、……。

木俣：あの、向こうにある寺沢の奥の方にバンガローのようなものが作られているのですね、……。あれなんか、子供、沢山来ているんですか。

降矢：さあ、どうなっていますか、ワシヤ、行ってみないんですがね、あれはまあ、官舎みたいな、職場みたいな学生かなんか、似たような人が来たり……。

木俣：あれは村で相談して作ってんですか。

降矢：町ではない、あれは農山村の振興事業の一環として、国庫補助をウンと貰ってやっただです。経営を西原に任された、一応、組合組織にしている。ウチの甥っ子があそこで、森林支配人でやっています。

木俣：ああそうですか、……。そこでは展示物とか、そういうものは作らないですか、……。

降矢：まだ、始まったばかりでね、どういうものをやったらいいのか、また、来た客によったり、だんだんやっているうちに変わるだろうし、従業員というか、使用人を随時使うように、……。今は人を使うまでにはいかないでしょう。客がウンとあって、いろいろどうなるか、理屈じゃ駄目だから実際やってみないと、……。どの程度、利用する人があるかどうか、それによって、逐次ね、……。プランとしては、養殖場を魚をね、養魚場をこしらえて釣りをやったり、というようなところまでは考えているんですかね、……。

とんだこんな土地で魚を飼うということは、賃金が掛かるのです。施設をやるのにはね、……。いまね、一つ池を拵えて、養魚場から（魚を・・）買ってきて、それを入れて置いて、それを放流するまでの段階？ だろうと思う。やればね、やりたいことはいくらでもあるんだろうがね、経費ばかりかけてもね、どうにもならないでも困るだろうね。三年とか五年とか掛けないとね、はっきりした基本が描けないんだわ。あの、いま民宿もあんまり良くない。もっと他に良い方に行ってしまう。民宿の利用者も思ったほどないですねえ、ええ……。

やっぱり特殊な環境で、なんか夏来れば夏なりの何かこう、来た客がやることのある土地でないと、ただ泊めてというのでは駄目ですな……。若い人たちが運動できるテニスコートとか野球場とか、そういう手の伴うものでないとね、……。ただ民宿といっても、……。

木俣：山の方の話ですけれども、自分と同僚というか勤めている人が居て、その人たちの

グループが協力している村があるんです。そこでも何か作っていないんですけれども、青少年の合宿所のようなものを作って、村の中を歩けるようにして、植物とか動物の活動とか、そういったこともできるという。

降矢：夏はね、この土地の子供もたいがいあのキャンプやるか、どっか出かけるですかね、そういう子供たちも利用することもあるでしょう。

木俣：ええ、キャンプですが、ありますね、・・・。

降矢：そりゃ、青少年とこだわらないで、全部総括？したものですからね、あそこは。

木俣：そういう都会の子供たちを連れてきてですね、都会の子供に自然というのを見せるとか教えるということにする・・・。

降矢：山はね、遊歩道がずうっとあれば、四キロとか五キロ、途中の道を越えるとあるですね。やっぱり、子供なんか利用するが、普通の人は暑いのに坂道をわざわざ上ったりは、割合少ないでしょうね、・・・。

木俣：そういうのが自然の中で植物の名前を覚えるとか、・・・。

降矢、ヤシ？もね、その甥っ子に聴いてもらえればいいですが、去年の受け入れは何百人とかの・・・だったそうですが、・・・(・・・聴きとれない・・・)。

木俣：ああそうですか。

降矢：たぶん一番多いのはね、職場の人たちが日曜に大勢で来て酒を飲むか、夜遅くまで焚火をして大騒ぎして帰るとというのが、多いじゃないですかね。

木俣：自分なんかその考えるに、街の子供たちを連れてきて村の自然を教えると、そういうようなことをできないかと、・・・。

降矢：いまのところバンガローが五つ。夏だからねほら、泊まっても寒くないけれど、寒い時季にはちょっと、子供なんかでは大変ですからね。でも、バンガローにもストーブを一つおけば結構暖かくなるって、・・・三月だったかな、そんなこと言っていました。

奥様：(・・・菓子を勧める声・・・)

木俣：いえ、そろそろ、次のバスで失礼しますので、・・・。

奥様：大丈夫、雨降らないようですから、・・・。

降矢：いいじゃないですか、滅多にお出にならないし、・・・。

木俣：また、お彼岸くらいにでも・・・。今日くらいなら何時だってね、・・・ただオカイコが真っ盛りで、いちばん忙しい・・・。八月から九月ですか、忙しいのは、・・・。

降矢：八月半ばから九月五日頃まででしょうね。少しは桑を用意したり、この頃は桑をたくさんはやらないです、桑畑も遠いですから・・・。

(B面終了)